留学生別科における教育の意義と課題
—自動車整備士をめざす留学生の育成—

高瀬利恵子・古川竜治・福井　稔
鈴木敦巳・及川浩和

1．は　じ　め　に

1－1．本学における留学生受入れ

中日本自動車短期大学は，今年度創立40年を迎え，現在，自動車工業科（2007年４月より自動車工学科に名称変更。本稿では，以下「本科」とする），専攻科，留学生別科（本稿では，以下「別科」とする）を設置している。自動車工業科の定員は１学年600名で，すでに２万名以上の卒業生を世に輩出している。

また本学は，創立当初より国際交流を視野に入れ，アジアを中心とした海外からの留学生に対して自動車整備教育を行ってきた。1970年に，最初の留学生２名を受け入れ，1984年には，国際協力事業団（JICA）の要請により研修生を迎え入れた。とりわけ1998年以降は，諸外国の学校と協定を締結し，留学生の受入れを行った。現在，中国・イタリア・マレーシア・韓国に10校を超える協定校があり，中国からは，留学生だけではなく，毎年数名の教員を短期研修生として迎え入れている。またイタリアのフェラーリ国立工業専門学校からは，毎年数名の短期留学生を受入れ，本学の学生を夏季の短期研修旅行，春季の短期留学に派遣している。

このような本学の継続的かつ地道な取組みと，さらにアジア地域での自動車産業のめざましい発展，中国を筆頭にアジア地域での富裕層の増加を背景に，特に中国からの留学生数が激増した。ところが，他大学に先立っての留学生受入れは，出願者の渡日希望と勉学希望の判別が難しく，一時期，自動車整備を修得できない学生を生み出してしまうこととともなった。しかしその後，多くの大学による留学生受入れ開始と，本学の選抜方法の改正，充実により，この問題は大幅に改善された。本学の学習内容が自動車整備という特殊性，専門性の高い内容であり，2級自動車整備士の国家資格取得という具体的な学習目標が設定されていることから，本学には目的意識が明確かつ具体的な留学生が比較的多いと言える。

また中国以外のアジア諸国からの留学生も増加している。現在，留学生の出身国は，中国，マレーシア，スリランカ，ベトナム，韓国，ネパール，ミャンマーの７カ国に広がり，さらにタイ，インドネシアやパキスタン等の国からも入学希望者が出ている。今後もこの傾向はさらに強まると見られる。これまでの留学生の卒業生総数は，今春で400名を超える。

１－２．日本の留学生受入れ

日本の留学生受入れ政策は，1983年に留学生受入れ10万人計画が策定され，その後，毎年留学生数が増加，2003年に約11万人となり，目標を達成した。数的には欧米先進諸国に並ぶ形となったが，全学生数に対する留学生数の割合はいまだ低い。中央教育審議会の答申では，現在の主要基本方針は，留学生数の割合を欧米先進国水準に近づけるため一層の受入れ推進を計ることと，優秀な留学生を受け入れるための質的充実の２つとなっている。このような留学生受入れ政策の転換を背景に，2004年以後，留学生数の増加率は低下し，2006年，ついに数自体が減少した。

数年前までは別科の設立が相次いだが，この２，３年は，上記の通り留学生数の減少から，別科の廃止，或いは募集停止を行う大学も増えている。現在は60前後の別科が大学・短期大学に設置されている。

１－３．本学における別科設置

本学では，長年にわたる留学生受入れの中で別科の必要性が高まり，2005年４月１日に別科を設置した。特に，自動車関連専門用語が留学生にとって非常に難しく，２年の修業年限の中で修得するためには，日本語教育や入学前専門学習の支援が有効であること，海外において自動車整備を学ぼうとしている者が，相当の日本語教育を受ける機会を必ずしも与えられていないことが，別科設置の理由である。

１－１で述べた通り，本学における国際交流は，長年に亘る実績を積み，本学が誇れる教育の特色の１つと言える。よって日本全体の留学生数の横ばい又は減少傾向に対して，本学の留学生数は増加し，別科への入学希望も激増している。2005年９月に初めて５名が入学，第２期2006年４月は８名，第３期2006年９月は25名が入学し，現在38名が在籍している。2007年４月入学予定者は36名を超え，在籍学生数は60名に迫る。定員20名であるが，受入れ数の安定と受入れ体制の充実が図れれば，定員を増やすことを検討している。また現在別科生の出身国は中国１国である。教員２名が中国語を話すため，日本語能力の低レベル者にも対応可能であったが，2007年４月以降はベトナムや他の国出身の学生が入学する予定であり，今後新たな対応や漢字等の新たな教育内容が必要となる。

さらに2007年３月に初めて別科の修了生（在籍半年で自主退学し本科へ進学する者を含む）を送り出すこととなる。進路変更する者が２名，他大学との併願を予定する者が２名で，本学への進学希望者がほとんどを占める(在学生へのアンケート結果も同様の結果を示している)。これは，本学の学習内容の特殊性，専門性に起因すると考えられる。

１－４．別科の意義

今や自動車産業は日本を代表する産業となり，今後も日系自動車関連企業のアジア地域での事業拡大は必至である。しかし日本語と母国語，自動車整備の両方の知識と技術を修得した人材は，

社会の需要に対して極端に不足しており，このような人材を育成することは社会・産業界からの要請に応えることであり，社会・自動車産業への貢献とも言える。現在本学で学んだ外国人卒業生は日本国内や母国で，日本の自動車企業或いは日系自動車企業と関わる仕事に就き，自動車産業を支えている。

別科の意義は，そのような留学生の勉学を支援し，日本語能力の向上をはかり，留学生に対する専門教育の充実・補助を行うことにある。それにより留学生教育の発展に，そして本学の国際交流の発展に，ひいては自動車産業の発展に寄与する。

具体的には，自動車整備を学ぶ意志を持つ者で，本科が必要とする日本語能力レベル（日本語能力試験２級程度）に達しない者に授業を行い，そのレベルまで引き上げることである。さらに本科留学生で日本語能力に若干の問題を有する者に対する補習，及び就職時に必要とされる日本語能力を身につけ関連の試験に合格するための補習を実施すること，それ以外に本科留学生が学習目標を達成し，卒業・就職するために必要な日本語面での補助（教材の改善，漢字教育，試験問題読解，就職面接マナー教育等）をすることが求められている。しかし，現在は，別科生に対する授業及び補習が中心で，本科留学生に対する支援は非常に不充分な状況にある。

２．本学別科の教育目標と教育内容

２－１．別科の教育目標

本学別科の目的は，「本学の本科で十分に学習することができる程度の日本語能力を身に付けさせることと，本科に必要とされる基礎能力を養うこと」（学則）である。つまり，本科に進学を希望する留学生を対象に，本科での授業に対応できる日本語力をつけさせるとともに，あわせて日本の文化・風俗習慣等を学ぶことで，日本人の思考・行動様式及びその背景を理解させ，学生生活を含む日本社会への適応を目指している。

現在多くの大学は，外国人学生の入学試験時における日本語レベルとして，《日本留学試験》400点満点中200点あたり（《日本語能力試験》２級レベル）に基準を設定している。本学別科の達成目標も，現在日本語能力試験２級レベルに設定しており，基本的に１年の課程で２級レベルに到達できるようカリキュラムを組んでいる。

２－２．別科カリキュラム（時間割）

別科は，以下の通り，授業を開講している。（ ）内は１学期単位数

【必修科目（合計：24単位）】日本語Ａ（２）・日本語Ｂ（２）・
　日本語Ｃ（２）日本語Ｄ（２）・日本語総合（２）日本文化事情（２）

【選択科目（合計：12単位）】
　自動車ビジネス（２）・数学（２）PC日本語（１）・英語（１）

必修科目は，「日本文化事情」のみ週１コマで，それ以外は毎週２コマある。全単位24単位を取

得しなければならない。選択科目は，全て週１コマあり，８単位を取得すればよい。合計32単位が修了要件である。

時間割は，１学期を７週間づつ，２タームに区切っている。最初に基礎をしっかり固めることと，緊張している来日当初に集中（週４コマ）して日本語科目を受講させることで学習効果を上げるのが狙いで，学期の前半７週間で「日本語総合」科目を履修する形をとっている。それに変わり，後半７週間で自動車ビジネスを受講し，応用日本語を学習する。来日２～３ヶ月後の精神的緩みの時期に，新たな目標を持たせ，学習効果を上げる狙いであり，本科進学への意識作りにも役立てている。

３．選択科目の授業内容と意義

別科における必修の日本語科目は他大学等の別科でもほぼ同様の内容であると思われる。本稿では，自動車整備士をめざす本学に特徴的な選択科目について述べる。選択科目は「自動車ビジネス」「数学」「英語」「PC 日本語」の４科目である。特に「自動車ビジネス」は，本科に自動車工業科を擁する本学のみの特徴ある科目で，本科の専門内容と関連性を持つ唯一の授業である。よって選択科目でありながら，全ての学生に受講するよう勧めている。特に中上級クラスではこの科目を充実させていく必要性を感じている。

「数学」は，本科の授業科目にもあり，専門学習の上で必要な学習内容である。「PC 日本語」は，授業を通じて日本語を学ぶことのできる科目であり，日本語能力向上を目的とする授業の一つと位置づけ，他の日本語科目と学習内容の関連性を持たせていく必要がある。「数学」「PC 日本語」ともに，その用語を日本語で学ぶことも重要なことである。「英語」は，直接日本語や本科の専門内容と結びつくものではなく，授業の目的，内容ともに難しい課題を有する。担当教員は非常に苦労せざるを得ないが，日本語以外の教材に触れ，それを通じて日本語を学ぶことは，日本語の表現と幅を豊富にし，非常に有意義である。

３－１．「自動車ビジネス」

この科目の目標は，自動車やそれに関連するビジネス，その他関連知識について学ぶことで，学生が別科の日本語のみの授業から，本科の講義や実習授業にスムーズに移るための手助けとなることを目指している。現在この科目は上級と初級の２クラス制となっているが，2007年４月からは他の科目と同様，３クラス制とする。またこの科目の授業期間は日本語集中学習期間を終えた各学期の後半（前期：６，７月，後期：12，１月）に毎週２コマ設けられている。

本科目の目的と内容は多様である。

①自動車に関連する用語や表現を習得する。

②自動車関連の教材，文章を使用し，日本語能力の向上をはかる。

③自動車，道路交通の危険性・安全性について考え，留学中の交通安全意識を高める。

④本科教科書の読み等を通じ，本科の授業にスムーズに移行できるようにする。
⑤自動車の危険性・安全性について考え，将来の自動車整備士の仕事の意味を認識する。
⑥自動車産業について学習し，日本で自動車整備を学ぶ意義，将来自動車産業で活躍する自分の姿をイメージし，学習意欲，目的意識を喚起する。
⑦ビジネスについて学び，ビジネスの現場の日本語と日本事情を理解する。それを通じ，働く責任意識を高める。

また教材は，既成の日本語教材には自動車を扱ったものは多くなく，生教材を多く使うこととなる。具体的には，自動車の雑誌，本学パンフレット，行政や交通安全協会，道路公団等団体のパンフレット，インターネット，CD などである。

３－１－１．上級クラス

現在は二クラスであるため，中上級が同じ授業を受けているが，2007年度４月以降はこれを二クラスに分け，それぞれより分化した授業内容を学習する。

上級クラスは数ヵ月後には本科で学ぶ学生を対象とする。よって本科目の目的は上記の通りであるが，特に上級クラスの目的は，次の４点に置く。①自動車に関する専門用語を覚え，慣れていくこと，②実習を含め，専門の教科書に用いられる動詞・名詞等を理解すること，③目的意識は高いが，本科で学ぶことに対する強い不安を感じている学生に，本科の教材を入学前に学習することで，若干の自信と安心感を与えること，④日本語能力に関しては，総合力をつけること，特に難しい長文を読み，内容を把握し，発表することで，日本語を使って思考する力，読解力，コミュニケーション力を高める。

学習内容・教材は次のとおりである。

① 日本語教材の中の自動車関連の文章から学ぶ。『日本語ディベート教材』（凡人社）『トピックによる日本語総合演習』（スリーエーネットワーク）等を用い，読解，発表，他者に対する質問，討論，意見をまとめて書く作業を行う。
② 『トヨタ語の事典』（日本実業出版社）『新編汽車技術詞典』（人民交通出版社）『自動車用語日中対照ハンドブック』（中日本自動車短期大学）等を用い，自動車の用語に慣れ，簡単な用語を理解する。
③ 『中国語ビジネス表現』（株式会社 DHC）『楽しくわかるビジネスマナー』（経林書房）等を用い，ビジネス，特に自動車ビジネスの関連表現，常識を学ぶ。
④ 『自動車整備実習１』（中日本自動車短期大学）『シャシ構造１』（中日本自動車短期大学）等本科１年次に使用する教材を用い，簡単な用語に慣れ覚えていく。
⑤ 『本音のクルマ選び』（宝島社）ハイウェイ交流センター発行パンフレット等を用い，自動車に関連する表現を豊富にする。

⑥　ビデオ『自動車の日常点検』を用い，簡単な仕事内容に関する表現を覚えるとともに，点検の仕事が生命を守る重要な仕事であることを認識する。

⑦　CD『ワクワクドライブ』（サイプレスソフト株式会社）を用い，アニメーションで安全運転について学び聴解力を高める。

3－1－2．中級クラス

中級クラスの目的は，上記の全体の目的以外に次の点に置く。①歩行，自転車，自動車に関する表現やルールを理解する。②日本語能力としては，日本語の基本文法項目の学習を終え，2級レベルの文法項目習得，さらには読解等の総合力の向上を図る。

学習内容・教材は次のとおりである。

①　日本語教材の中の自動車関連の文章から学ぶ。『ニュースから覚えるカタカナ語350』等。余り長くない文章を読み理解する。

②　『自動車』（ポプラ社）を用い，自動車産業の全体像を把握する。

③　『交通安全作文集』（ハイウェイ交流センター）を用い，交通事故で家族を亡くした人の作文を読み，自動車の危険性と安全性を認識する。事故の内容や家族の人生を理解し口頭で述べる。

④　『JAFMate』（JAFMate 社）より「魔の17～20時台　見えない歩行者」「あぶない酒酔い無灯火自転車」「〔よく見える〕が引き起こす危険」見通しの良い道を走っています　このときあなたは何に注意しますか？」等を用い，自動車等の危険性と安全性を認識する中で，読解力を高める。

⑤　『すてきなカーライフのすごし方』（日本自動車工業会）『人にやさしい安全運転』（全日本交通安全協会）等を用い，人を守る自動車の乗り方を理解するとともに，自動車関連の表現を豊富にする。

3－1－3．初級クラス

初級クラスを受講する学生は，基本的に来日間もない新入生が対象となっている。よって，日本語能力はかなり低く，日本語だけで難しい言葉や表現を使った授業をおこなうのは比較的困難を伴う。また本学のほとんどの別科生が自動車に興味を持っているが，予備知識を有するものは多くはない。本科で何を学ぶのか，卒業後はどんな仕事に就くのか将来像を具体的に描けていないものも多い。こうした将来像や基本知識の欠落は，遅かれ早かれ勉強意欲の喪失につながる。以上の点を鑑み，初級クラスの主要目標を次の2点に設定している。

①　自動車産業（製造や販売）についての概要について学ぶ

②　自分の将来像を描くのに役立つであろう具体的な実例を挙げて，学生の興味や自覚を喚起する

その中で，日本語を学ぶ意義を再度理解し学習意欲を高めると同時に，日本語初級文法や簡単な自動車関連語句を学び，日本語能力も向上させる。

教材は，インターネットからの情報や本学入学パンフレットからの抜粋を使用して，オリジナル教材を作成している。特に役立つのは本学パンフレットで，本科進学後に受ける実習や，将来の仕事について，様々なデータや写真，更には実際の先輩たちの体験談を通じて学ぶことができる。このように，学生が自分の将来像を描くために少しでも役に立ちそうな教材を考え作成している。

今学期は，以下の４項目の内容について講義を行った。

①『自動車ができるまで』

・自動車開発の企画からデザイン，試作，テストまで，どのような過程を経て自動車が開発されていくかを見ていく。次頁に参考としてこの回の教案を提示する。なお，本教案はＢ４サイズである。

②『自動車の生産工場』

・三菱自動車の例を挙げて，自動車製造工場での簡単な製造過程を学ぶ。なお2006年11月には学外授業として，トヨタ自動車の工場見学も行ったため，比較的理解しやすかったはずである。また学生の身近なところにも《パジェロ製造》等の大きな工場があることなども紹介する。

③『自動車関係の仕事に携わる先輩たち』

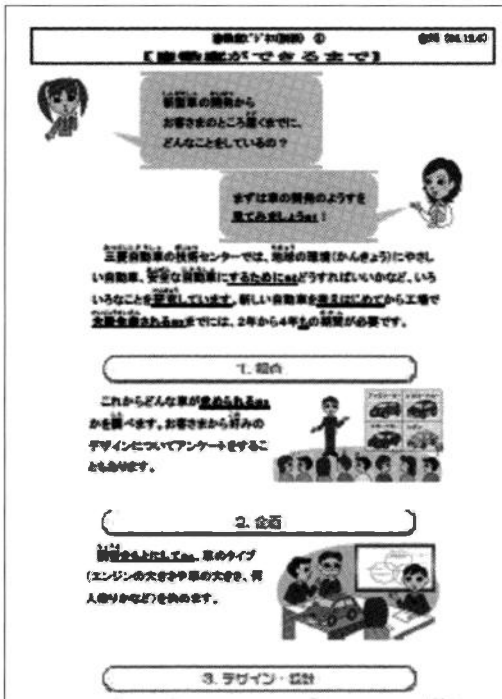
・本学留学生向けパンフレットより，当校の本科卒業生からの，後輩に寄せたメッセージを日本語で読むことで，将来の仕事を身近に感じてもらう。また参考として，そのほかの先輩の後輩へのメッセージを中国語原文でもわたす。

④『就職活動と将来の進路』

・本科に入ってからの就職活動や就職先，または他大学編入について，本学パンフレット（2007年度入学案内 p27，28）を利用し，紹介または説明を行う。別科の学生は，今はただ日本語さえ勉強していればいいという気楽な気持ちが大きいためか，本科に入ればすぐに就職についても考え始めなければならないことを知ると，多少驚くようである。

３－２．「数学」

現在，別科に設けられている科目，「数学Ⅰ」と「数学Ⅱ」の主な内容は，微分・積分と確率・統計の初歩である。レベル的には，やさしくした高校数学というところである。別科の学生にとって興味のある数学の分野は何か，何を内容とするかは，検討すべき事項である。事実，別科の学生が，日本の高校の新卒にあたる18才から30才後半までの広い年齢分布をしていて，入学までの経歴もまさに色々であるので，数学の学力と興味もまちまちである。これらの学生の主な勉強のターゲットは日本語の学習であるので，一般的に数学に対する学習意欲は高いとは言えない



【今日の文法】"　　"のところです。

1、新しい車を買ってあります。

★【他動詞で頼みごとを？】
「この料理はおいしいですから ちょっと食べてみます。」
「駅へ行く道がわかりません。あの人に聞いてみましょう。」
「この電話ちょっと使いてもいいですか。」

＊何かを試しにやる、何かをちょっとやるとき使います。
→『みんなの日本語Ⅱ　第40課　練習A3』

2、自動車の勉強をするために、日本へ来ました。

★【他動詞目的／名詞のためにに】
「学校に行くために、新しいかばんを買いました。」
「自分の会社を作るために、一生懸命働いています。」
「健康のために、毎日ジョギングをしています。」

＊真ろの文の行為の目的を表します。
→『みんなの日本語Ⅱ　第42課　練習A1』

3、私は母にケーキを食べられました。

★ 他動詞の受身動詞　（中国語：被動句）
「私は先生にほめられました。」
「電車の中で、誰かに足をふまれました。」
「日本の自動車は、中国でつくられています。」

＊ほかの人が、自分（目的）によくないことをして、いやだと思う気持ちを伝えるときによく使います。主語以外の"物"が主語になるときも使います。
→『みんなの日本語Ⅱ　第37課　練習A1-7』

4、日本語授業の成績をもとに、クラスを決めます。

★【名詞＋をもとに／もとにして】
「この小説は事実をもとにして書きました。」
「ゆらがせやかたかなは、漢字をもとにつくられました。」
「自分からもっと世界をもとに、レポートを書きます。」

＊何かを判断するときの基準を表します。
→日本語能力試験３級文法

5、最近中の人たちがこの部屋を使っています。

★ ㊀【～中（じゅう）】の使い方　←→　㊁【～中（ちゅう）】
㊀会社中（にほんじゅう）、世界中（せかいじゅう）、クラス中（くるすじゅう）
㊁授業中（じゅぎょうちゅう）、電話中（でんわちゅう）、食事中（しょくじちゅう）
「クラス中の学生が授業時間を待っています。」
「私は今電話中です。」「会議中ですから、あとで電話します。」

＊㊀は「～全部」、㊁は「今現在～をしているところ」という意味。

6、風邪を引いたので、学校を休みました。

★【動詞・いけいようし形容詞／な形容詞・名詞（な）＋ので】
「一生懸命勉強したので、合格に合格しました。」
「これはとてもおいしいので、もっとたくさん食べたいです。」
「この電話はとてもきれいだので、みんなが好きです。」
「今日は暇なので、遊ぶ余裕ません。」

＊真ろの文（後者）の理由を表します。
→『みんなの日本語Ⅱ　第39課　練習A4』

が，問題無く授業に付いていける高い学力の学生，更に大学に進学したいという意向を持っている学生もいる。このように，学力と意欲，基になる日本語能力が違う学生をいっしょに教育するカリキュラムになっているので，授業はやり難いし，教育効果も期待しにくいのが現状である。

そこで，数学の授業といっても日本語の能力の向上を図るため，“数学を教材にする日本語教育”というコンセプトで授業を行った。授業では，日本では数の数え方はどう言うかとか，数を数えるときの指の折り方，日本の小学校では算数で何を勉強するかなど，初歩的なところから始め，数学の用語の説明を中国語と対比させながら，できるだけ会話をさせながら，授業を行った。留学生の授業態度は，総じて日本人の学生より良いといえる。しかし授業の理解度は，予想通り高い人と低い人がいる。全体的には，授業では，数学のことだけでなく，TV，新聞やカラオケのことも話題にして，できるだけ満遍なくどの学生にも話かけるようにし，学生から話を引き出し，話せるように仕向けてきた。手探りながら，それなりにやってきたが，意義，目的，内容，方法など検討すべき課題は多く残されている。

3－3.「英語」

本学の本科の留学生の出身国は7カ国ほどだが，別科の英語クラスは，15名の中国人留学生のみである。この15名の学生を英語力と日本語能力から分類すると大きく分けて3つのグループになる。まずは“日本語も英語もよくできる学生”，つぎに“英語はできるが日本語は少しという学生”，そして“その逆の学生”などである。

実際の授業では，この別科生たちにとって今一番大切なのは英語よりも早く日本語が使えるようになることだと考え，授業の最初30分くらいは日本語でいろいろな話をする。それは少しでも早く日本と日本語に慣れてほしいと思うからである。それから英語の授業に入るが，まずはテープの短文の聞き取り練習を行っている。ワンセンテンスを数回繰り返して聴かせて書かせる。そして発音，アクセント等の説明をして，それから日本語に直す練習をしている。日本人学生ならともかく，中国人学生の思考は，英語→中国語→日本語，つまり2つの外国語が頭の中で混乱しており，きっと大変なはずである。また英文を日本文に訳しても，その本文のスピーチレベルを理解させるのに苦労する。例えば，ある日本文を，友人同士なら使ってもいいが，年上の人や先生には使えなく，このように言わなければならない等々である。そこで質問が出て，話がどんどんと発展していくこともある。

この英語クラスの学生は，全体的にやる気十分の学生が多く授業は楽しい。教える側が中国語ができないことが，彼らにはプラスになっていることもある。とにかく，英語か日本語を使わなければならないのであるから。

この1年，別科生に英語を教えていて，特に気づいたのは，彼らは和製英語（英語としては通じないが，日本人の間でのみ通じる言葉）を知らないということである。そのため，来年度からは，今年度以上に和製英語，その中でも特に自動車に関する言葉を多く教えて，彼らが本科に入

学してからの助けになればと考えている。

3－4.「PC 日本語」

3－4－1．別科における「PC 日本語」の意義と目的

先行研究によると,「ワープロの漢字変換機能により，読みの曖昧さや綴りの不正確さに気付くことができる1)」といった見解があり，このことを踏まえた上で，日本語ワープロの訓練や各種アプリケーションソフトの習得を通して，日本語能力の向上を目指している。

3－4－2．主な授業内容

日本語 Windows の操作方法と，各種アプリケーションソフトの習得を行っている。そのための独自教材も作成し，使用している。

3－4－3．日本語学習中かつ自動車を学ぶ予定の学生を対象にして気をつけている点

学習指導では，言葉が通じないことが多々あるため，誤解を招かないためにも，筆談や日本語が比較的堪能な留学生に通訳を頼むなどして，学習者本人の理解の上で進めるようにしている。

3－4－4．教育・学習面での留学生の特徴と指導方針

母国では家庭や学校において，コンピュータの利用がかなり進んでいるようで，ほとんどの学生は，日本語 Windows の操作方法に戸惑いが見られない。そのため講義では，パソコンの操作方法について事細かく指導する必要がない。また，インターネットを利用した情報収集に興味のある学生が多いが，そればかりに夢中にならないよう講義ではバランスに気を配っている。最終的には，日本語ワープロでレポートを書き，提出できるレベルにまで到達したいと考えている。(参考文献：[1] 渡嘉敷恭子：日本語ワープロソフトの使い方の指導と授業報告，日本語教育論集13, p. 101-118, 2003)

4．別科生の今後の進路

まず学生へのアンケート（2007/01実施）の内，進路に関わる項目を紹介する。

1）別科修了後は，どういう予定ですか。(有効回答数：29人)

番号	①	②	③
人数	24人	2人	3人

番号①：本校の本科に入りたい

②：ほかの大学に進学したい

③：まだわからない

2）上記で本科進学希望の学生は本科を卒業後はどういう予定ですか。（有効回答数：26人）

番号	①	②	③	④	⑤
人数	11人	0人	4人	5人	6人

番号①：日本で就職したい
②：中国へ帰って就職したい
③：まだわからない
④：当校の専攻科に入りたい
⑤：まだわからない

3）2級整備士国家資格は取得したいですか。（有効回答数：25人）

番号	①	②	③	④
人数	10人	13人	2人	0人

番号①：絶対取得する
②：できれば取得したい
③：わからない
④：必要ない

4）今後の学習・能力・進路等について不安はありますか。（有効回答数：26人）

はい	いいえ
13人	13人

【不安は何ですか】
・ 2級整備士の資格取得は難しいと聞いている
・ 本科を卒業したら就職できるかどうか
・ 本科に入れるかどうか
・ 本科の勉強
・ どうすれば日本語が上手になるか
・ 会話能力が低い
・ 聴解が悪く，今後の勉強に差し支えるのではないか
・ 日本社会についてよくわからないことが多い
・ 学費や生活費の問題

別科修了後の進路については，83%が本科進学を希望しているが，10%がまだ未定である。さらに，本科の学習目標である国家資格取得については90%以上が取得したいと考えているが，内容や取得可能性がわからず，日本語能力の問題とともに将来の進路，就職に関して不安を抱えていることも明らかになった。この結果から，数字的には一見目的意識が明確なように見えるが，学生は十分な情報を持っておらず，不安な状況にあると言える。本科の学習内容，将来の姿についてもっと情報を提供し，学習の動機づけを行うことが必要である。

5．別科教育の今後の課題

5－1．本学の特色あるカリキュラム

別科修了後，本科に入学してから専門内容を修得するためには，学生は引き続き日本語能力の向上が必要であるとともに，さらに自動車というまったく新しい分野を学ぶにあたり，相当の負担がかかるものと予想される。それを最小限に抑えるために，別科から本科へなるべくスムーズに移行できるような学習内容，特に自動車に関する知識等の補強をさらに充実させなければならない。別科では週１コマの「自動車ビジネス」科目が開講されている。選択科目であるが，学生には必ず受講するよう指導している。授業の内容・目的については本稿２及び３で述べたとおりだが，学生は実際に専門の授業や実習教室を見たこともなく，本科教員や日本人学生のみならず，本科留学生と話す機会すら乏しい。また仕事内容の説明等も不十分で，就職後の将来の姿や可能性をイメージすることもできない。現在，中級・上級クラスの学生の本科進学に対する熱意は強く，目的意識を維持しているが，今後は，目的意識の強化から学習意欲の更なる向上につなげるべく，本授業以外に，実際の専門教育の場に触れる機会を設けていく。このような専門内容の予備教育となる科目の増設を早急に検討し，本学の特色あるカリキュラムを確立したい。特に本学には，協定校があり，その学生は留学前に１～３年の学習期間がある。この期間に，IT 利用により本学の授業内容を海外で受講し，事前学習するシステムも確立したい。

5－2．留学生が自動車整備を学ぶ際の問題点と課題

専門学習と国家資格取得のためには，留学生にとって勉学上の大きなハードルが幾つも存在する。

１点目は，日本語の特殊性である，専門用語はもちろんのことであるが，動詞，名詞等においても，日本語教育においての既学習項目と相当の差異があり，中には日本語教員が，間違いだと指摘してしまうような言葉まで存在することである。

２点目は，実習における聴解の能力と危険性の問題である。実習用語は，特殊であり，しかも実習時は，板書無しで語られる場合が多い。騒音がある場合や，緊急に危険を教える場合もある。それが聞き取れなければ，大きな危険を伴ったり，機械を故障させる原因ともなる。

３点目は，外来語の多さである。カタカナ語が多くなり，多くの日本語学習者を泣かせる。特

にカタカナ語の長音表記には特徴があり，習得が難しい。

4点目は逆に漢字の多さである。これは特に非漢字圏学習者にとって相当の障害となる。漢字圏学習者にとっても意味は理解できても聞き取りは難しい。

5点目は，読解の難しさである。試験問題の文章は，二重否定や複雑な言い回しは少ないが，文章は比較的長く，すばやく問題を読みこなす能力が要求される。カタカナや漢字に時間をとられては時間不足になってしまう。或いは意味がつかめなくなる。

以上の問題点から，留学生が自動車整備を学ぶために必要な事前学習・指導補助の課題・注意点として以下の項目が挙げられる。

① 専門学習・国家試験で高頻度に使用される言葉を事前に学ぶ。特に聞き取り能力を向上する。

② 外来語については，カタカナに多く触れるようにし，英語がわかる者には外来語の法則，接頭辞等の意味を理解させる。

③ 教科書の漢字に振り仮名をつける。

④ 実習時の補助，或いは予習・復習等のアドバイザーをつける

⑤ 留学前教育（協定校での教育，入学決定後からの入学時までの教育）の充実により，上記課題の導入を図る。

今後，留学生が自動車整備を学ぶために必要な日本語能力，日本の社会，学校で生活し学んでいくための基礎力を身につけられるように，別科の教育内容，教育体制の充実を図っていく。

6．おわりに

別科設置後2年，開講後1年半しか経過しておらず，他大学のご指導を仰いでいる段階であるが，ここで自動車整備士を育てる本学ならではの特徴と課題をまとめ，今後の発展の土台としたい。さらに本学における成果と問題点を示すことで他大学の参考になれば幸いである。またこの場を借りて，他大学別科の関係者の方々，本学教職員の皆様のご指導，ご協力に心より感謝申し上げる。